

令和5年度 山形県立長井工業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

第6次山形県教育振興計画（後期計画）

基本目標：人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

テーマ：つなぐ～いのち、学び、地域～

目指す人間像：「いのち」をつなぐ人 学びを生かす人 地域をつくる人

全体を貫く基本姿勢 広い視野と高い志を持って

教育目標 (目指す生徒像)	(1)「人間性の育成」責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
	(2)「創造性の育成」確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
	(3)「社会性の育成」ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会に貢献できる人間の育成

【達成度】A:十分達成できた B:ある程度達成できた C:あまり達成できていない D:まったく達成できていない

自己評価				学校関係者評価	総括			
番号	重点目標	評価基準	目標の達成状況、達成にむけた取組み状況と分析	達成度		成果と課題、次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1	社会を生き抜く 確かな学力の育成	学習指導	① 「観点別学習状況の評価」実施を含めた指導と評価の充実改善 ② 一人一台端末の活用を含めたICT化、デジタル化への対応 ③ 「総合的な探究の時間」の実施と改善 ④ 新規導入となる「デジタル産振設備」を活用した更なる実践	教職員による評価の平均がB以上になること。	新教育課程に移行して2年目。3つの観点から、評点および評価(1～5)の整合性について教職員研修会を実施した。生徒および保護者にも資料を配布した。 各教科の授業や生徒会などの特別活動にて活用する機会が増えてきている。 年間の予定表を作成し実施中。学年会で進捗についてその都度確認しながら改善し取り組んでいる。 インターシップ関連で1年時よりテーマに充てられる時間数は少ない。 実習、製図などの授業で活用した。	B	令和6年度が新教育課程完成年度になる。3つの観点を年度当初各授業で示し、評点および評価の齟齬がないように、教科担当者間で確認し、引き続き丁寧な指導計画、授業運営、評価を心がけていく。 教科間あるいは他校での活用事例など、連携を深めながら更なる研鑽を深めていく。 調べることから始めたが、始めに調べる方法や意見を出すための手法を事前に学ばせずに行ったため、生徒は指示待ちになってしまった。手法の定着してから取り組むように計画することが大切である。 テーマの設定から生徒の自由度があつてよいと感じている。 専門科目での活用範囲を広げることができた。 来年度は学習効果の検証を検討する。	中学生が、全校課題研究発表会に参加したことにより、長井工業高校への興味・関心が高まった。感想には、「楽しかった」、「面白かった」、「興味をもてた」などがあった。今回は各代表2チームの発表だったが、他のチームの発表も聞いてみたいと思ったという回答もあった。 見学後のアンケート結果を見ると、全体的に評価が高かったことは良いこと。 保護者アンケートは、評価が令和3年度に比べると高くなっていて、良かった。 アンケートの項目を細かく見ると、保護者が求めているレベルと生徒の設定している目標にずれがあるのでないかと感じる。そのずれを軽減できるような目標の提示ができるようになれば良いのではないかと、また、家庭での会話が少ないことも原因だったのではないかと。 来場者や参加した方ばかりでなく、なぜ参加しなかったのかなど、未開拓の方々へのアンケートを実施できれば、違う視点でさらに改善できそうである。 工作部やその他の活動を広げ、学校全体として取り組んでいけると技術やものづくりなど、工業高校の魅力発信につながるのではないかと。 団体競技の部活動では、単独で参加できないのが残念である。
2	社会で自立できる 基礎的な力と実践力の育成	生徒指導 特別活動 進路指導	① 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上(SNS利用、成年年齢引き下げ対応を含む) ② 特別活動や部活動、コンテスト等への積極的な参加を推進 ③ 部活動の任意加入制への移行に伴う進路指導、学習指導を含めた生徒指導の充実 ④ キャリア教育と基礎学力向上が結びついた進路指導の更なる研究	教職員による評価の平均がB以上になること。	不適切な写真がSNSにアップされていることを外部から指摘される事案があった。 マイコンカーラリーにおいて全国大会出場、各種コンテストへ出場し入賞。 水泳競技において東北大会出場。 9割の生徒が入部した。部活動については、意識の高い活動が行われた。 求人倍率の上昇(4.30倍)で12月末で就職希望者は全員、進学希望者も2名を残し内定した。県内就職は77%で地元志向は強く、進学は大学等が4名、訓練校や専門学校等が14名だが、そのほとんどが県外である。	B	スマートフォンの利用だけでなく、あらゆる場面で広く情報リテラシーの涵養に努める必要がある。 合同チームによる出場の部活動が多いため、練習に関して苦労している。 個人競技やコンテストでの活躍がみられる。 生徒数と部活動の数について検討が必要である。 部活動が任意加入制になり、4月当初は9割の生徒が入部したが、その後退部する生徒がいた。選択することへの責任、継続して物事に取り組むことの大切さを指導する必要がある。 就職、進学ともに順調に内定を得た。少子化や人手不足の影響で、あまり苦勞せず合格できた要素が大きい。不採用生徒もいたので今後も基礎学力、総合力の充実を図る必要がある。国家公務員合格は、本人の努力と粘り強い職員の指導の賜物である。	今年度も、地域有識者・行政関係者・企業経営者・大学関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会(学校評議員会と同一メンバー)を設置した。 多様な視点で、アンケート項目や学校のPR等について、ご意見やご助言をいただいた。 今年度、5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、コロナ禍以前並みに学校行事が実施できた。しかし、3年間停滞していたことがあり、企画経験のある教員は減少、また、生徒にとっても初めての行事が多く、これまでない企画ができた半面、準備等には時間を要した。 本校の最大の課題である入学者増加を目的として、今年度、長井市内中学校2校の2学年生徒全員を全校課題研究発表会に招待した。アンケート結果から好評であることが伺えた。本校の魅力伝える良い機会ととらえ、来年度も継続して実施する。 今年度から、産業教育連携協議会を立ち上げた。共同研究、地域企業見学、中長期インターシップ、学校説明会・見学会、ものづくり体験活動等の事業を実施した。いずれの事業も、在校生、中学生から好評を得た。来年度も継続して実施していきたい。
3	安心・安全で元気な 学校づくり	いじめ防止 保健衛生 安全指導	① いじめ防止に向けた組織的、計画的な取り組みの継続と早期発見・早期対応 ② 心身の健康の保持増進するための実践力の育成(新型コロナウイルス感染防止対策の継続、検診後の受診率の向上、自己肯定感を高めるための取り組み) ③ 自他の「いのち」を守る安全教育の推進(交通安全、実技・実習等での事故防止)	教職員による評価の平均がB以上になること。	いじめに関するアンケートを2回実施した。生徒・保護者共にいじめはなかったと回答したが、その後過去にあったいじめが発覚した。 新型コロナ感染症、インフルエンザの感染対策を徹底してきたが、残念ながら学級閉鎖の状況も発生した。 定期健康診断後、受診勧告書を配布した生徒に繰り返し呼びかけを行い、受診率を向上させ生徒の健康管理を図った。 実習室の整理整頓を行い、ルールの順守を指導した。 職員向けの安全教育講習を行い、指導力を向上した。	B	いじめが起きてからの行動ではなく、いじめを察知できる取り組みを行う。 些細なことでも話し合える職場環境を整える。 感染症対策について、感染症を安易に考えている生徒が多いため、集会やホームルーム等で徹底して指導を行い意識を高める。 保健だよりを通して、健康管理についての情報を生徒や保護者に提供し、心身の健康が図られるようにする。 保健講話について、専門家から話を聞く機会を継続し、健康についての知識を深め健康行動ができるようにする。 実習等における重大事故は発生しなかった。 来年度も実習室等の環境整備を進めると同時に、研修を通して安全性の向上を図る。	本校の最大の課題である入学者増加を目的として、今年度、長井市内中学校2校の2学年生徒全員を全校課題研究発表会に招待した。アンケート結果から好評であることが伺えた。本校の魅力伝える良い機会ととらえ、来年度も継続して実施する。 今年度から、産業教育連携協議会を立ち上げた。共同研究、地域企業見学、中長期インターシップ、学校説明会・見学会、ものづくり体験活動等の事業を実施した。いずれの事業も、在校生、中学生から好評を得た。来年度も継続して実施していきたい。
4	地域に貢献し信頼される 学校づくり	地域連携 情報公開	① 学校の応援団としての産業教育連携協議会の効果的な運営 ② 入学志願者を増加させるための地元中学校や地域へのPR活動の充実 ③ PTA活動の充実を含めた保護者との連携 ④ 地域と連携した生徒の健全育成と郷土愛を育む教育の継続実施(「学校奉仕活動」等) ⑤ 積極的な情報提供と情報発信(ホームページ、一斉メール、市の広報等の継続利用)	教職員による評価の平均がB以上になること。	第1回は6/27、第2回は7/19に実施し、今年度の委員の委嘱、事業計画、予算案を承認していただいた。1/16の全校課題研究発表会等に参加していただいている。 第3回は2/20に実施し、来年度の事業に向けた助言をいただいた。 長井南中学校、長井北中学校、白鷹中学校の2、3年生への学校説明会、実習設備見学を行なった。 長井南中学校、長井北中学校の2年生を全校課題研究発表会(1/16)へ招待した。 PTA研修事業として県内企業・学校見学会を実施した。また、高校生マナーアップ運動に合わせたあいさつ運動や長工祭における模擬店の運営など、保護者等の協力により実施することができた。 あやめ公園の清掃活動は、天候不良によりできなかったが、「Let's Lock 花プロジェクト」を地域の方々と連携し実施できた。 荒砥駅構内の車両基地で列車の清掃活動を行った。 さくら連絡網の活用により、タイムリーな情報発信と保護者等との連絡をより密に行うことができた。また、山形新聞には複数回本校の記事を掲載していただき、効果的に情報発信することができた。	B	今年度から設立した協議会である。学校行事や施設・設備を委員の方に見てもらいながら、ご意見等をいただいた。 今年度の総括を生かし、来年度も効果のある組織運営に努めていく。 見学後のアンケートでは、概ね好評な意見が多かった。 来年度も事前打ち合わせを綿密に行い、ニーズに合った学校説明会、体験学習会を展開していく。 PTA総会への参加者を増やすように努めていく。長工祭における模擬店は4年ぶりの運営となったが大盛況だった。 荒砥高校生と一緒に多くの生徒が列車清掃に参加することができた。 あやめ公園の清掃活動については、実施時期の検討を行う。 SNSを積極的に活用しながら、より一層の情報発信に努めていく。	今年度から、産業教育連携協議会を立ち上げた。共同研究、地域企業見学、中長期インターシップ、学校説明会・見学会、ものづくり体験活動等の事業を実施した。いずれの事業も、在校生、中学生から好評を得た。来年度も継続して実施していきたい。